

2014年(平成26年)12月19日(金曜日)

# 色彩検定 ネット学習で効果

## 名古屋学芸大 自ら練習問題 半数弱合格

日進市の名古屋学芸大メディア造形学部ファッション造形学科で、色に関する幅広い知識を問う「色彩検定」一級を受ける学生が、インターネット上で自主学習する「学習管理システム(LMS)」を独自の手法で活用し、合格率向上へ成果を挙げている。

(並木智子)

LMSは、学生が専門を学生自らが作る。スマートフォンにも対応サイトにアクセスとで学習意欲を高め、応させるなど工夫し

た。

学生は公式テキストから分相し、章ごとに四択の練習問題を作り続けた。完成した問題集は、石原教授が順次サイトに掲載。学生は各自で自由にサイトにアクセスして学習。本年度の三年生のせに、検査は十五人全員が受り組んで検定を受け、十一人が一次試験十一人が二次試験を通過。うち七人が実技や記述式問題の二次試験も通って合格し、多くの学生が合格できた。全国的な合格率は30%台で、同学科は主催する色彩検定協会から二〇一三年度の全めることができたのが国優秀団体賞も受賞した。

合格した四年の伊東優里さんは「正解ではない選択肢も本当にそうなのか確認を重ねたので勉強になった」と話し、四年の岡田結以さんも「テキストをじっくり読んで問題を作ったから内容が深く頭に入った」と効果を実感した様子だ。

用サイトにアクセスされ、解答すると正否が表示される。管理者側の教員は、パソコン上で、各学生のアクセス時間や回答率などが分かる、学習状況を把握できる。

ファッション造形学科で取り組んでいるのは、石原久代教授(左)とゼミ生。昨年七月から、当時の三年生十五人が、秋の色彩検定一級の合格を目標に掲げて活用を始めた。システム上で出題される問



スマホやタブレットで問題を解く学生と石原久代教授(後列左)。日進市の名古屋学芸大で



問題が表示されているスマホ